令和８年度北海道倶知安高等学校　第１回　学校運営協議会　報告書

１　目　的　　本校は、後志管内羊蹄山麓にて地域に根ざす伝統校である。グローバルな地域の教育資源を活用しながら、広い視野で地域の課題を見つけ、その課題を解決するための方策を協働的に検討し、実践的な教育活動を通して人材の育成を図ることを目的とする。

２　日　時　令和８年６月１２日（金）１３：３０～１５：００

３　場　所　北海道倶知安高等学校　会議室

４　出席者　《学校運営協議会委員》敬称略

古　谷　眞　司〔地域住民〕（欠席）
木　村　聖　子〔地域住民〕
吉　田　　聡〔地域住民〕
高　田　直　紀〔保護者〕
濱　﨑　順　平〔運営に資する者〕（欠席）
平　野　雄　二〔行政機関の職員〕
早　川　貴　士〔行政機関の職員〕
白　川　博　順〔地域住民〕（欠席）
遠　藤　　正〔学識経験者〕（欠席）

《校長及び教職員》

志　田　光　瑞〔校長〕
宮　澤　正　行〔教頭〕
瀬　尾　武　嗣〔教諭・産学連携〕（欠席）
伊　林　真　輝〔教諭・教育連携〕

５　議　事

（１）委嘱状の手交　会長挨拶　校長挨拶　自己紹介

（２）取組説明〔学校経営方針（校長）・教育連携（伊林）・産学連携（教頭）〕

（３）熟議のテーマ

①活動計画（産学連携・教育連携）をより充実させるために

②学校の魅力化づくり

６　熟議内容

・今、取り組んでいる内容をぜひとも深化させてほしい。働いて問われることだが、社会貢献の重要さを知ることになる。企業は何について、どのように貢献するのかという具体的な取組を「見える化」することが求められる。生徒は現在の自分の立ち位置を確認して活動して欲しいし、AI に相談してみるのも一つの確認になると思われる。

・自分の子どもはニセコ国際高校に魅力を感じている。倶知安高校の取組は非常に魅力的な地に足がついた活動といえる。しかし、残念ながら地域に周知されていない。やはり、今の時代は SNS による情報発信が有効だと思われる。特に、高校生活の内側を視覚的に情報提供できると印象に残る。インターンシップも地域としてバックアップしていくつもりなので、今後も協力していきたい。

・世界中の国籍が異なる人々が多く集まる地域で、ぜひ、生の英会話を体験して欲しい。英語が母語でない人とも話をすることで、多様な文化を体感し、共感することができ、それが異文化理解につながる。観光協会も活用しながら、高校から情報発信をして頂きたい。

・この学校運営協議会から、地域の有力者に頼めることは積極的に行動して欲しい。現在、倶知安中学校から倶知安高校への進学率は５０％にも満たない。他の地域では、タブレットの貸し出しや制服の無償化など、保護者向けのアピールも行っている。道立高校ではあるが、倶知安町とのつながりを強くし、金銭的な補助を受けられるようにするべきである。倶知安高校の存続が危ぶまれるようになってから対策しても手遅れになる。倶知安中学校と倶知安高校の結びつきについて、学校祭を見に来て頂けるよう働きかけることが、先輩の活き活きとした姿を直接見ることになり、地元の高校への進学を希望する割合が増えると思われる。

・現代はインターネットもスマホで簡単に調べることができるため、高校選択が容易にできる。その中で、他地域の高校と比較して、選んでもらえる魅力を発信して欲しい。その魅力は、倶知安高校には充分にあると思われる。そのためには、例えば、倶知安高校の先生が倶知安中学校に出向き、直接、授業を行うなど、密接な取組が必要である。倶知安町の義務教育は、じゃがスタ（英語活動＋探究活動）というレベルの高い活動を実践しており、それを倶知安高校の英語活動や探究活動につなげて、花を開かせて欲しい。